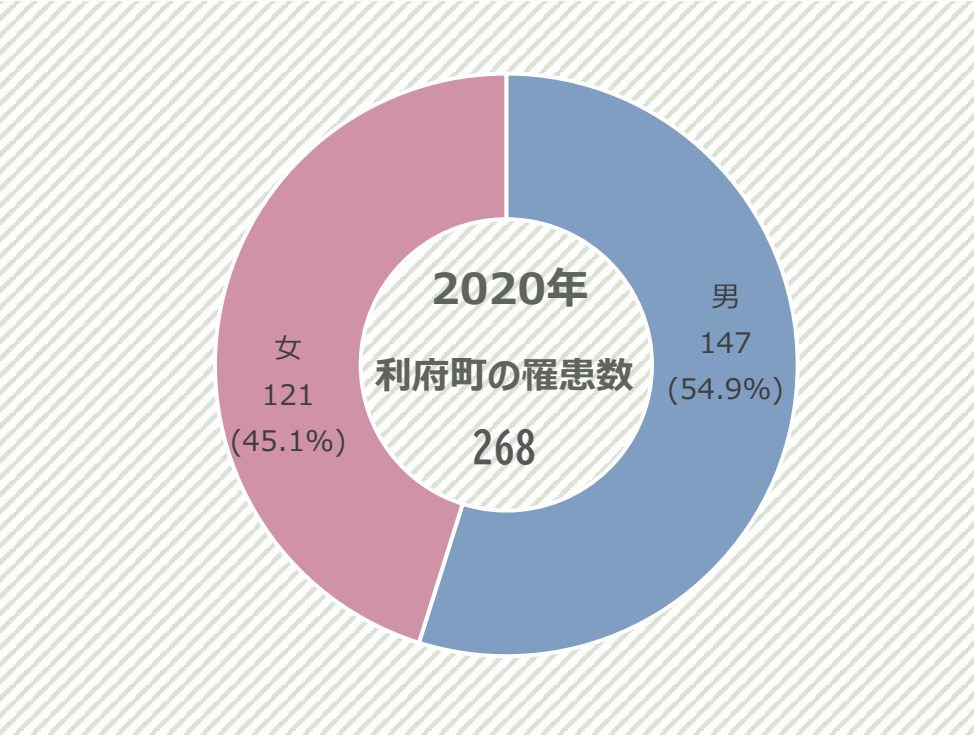
利府町のがん罹患

令和２(2020)年集計

罹患数



※上皮内がんを含む（以下、図表のすべてで同じ）

2020年に利府町で新たにがんと診断された件数

男性	**147 件**
女性	**121 件**

男性は女性よりも多く、全体の過半数を占めていました。部位別では、男性では、大腸、胃、前立腺、肺、膀胱の順に多く、女性では、乳房、大腸、子宮、胃、肺の順に多くなっていました。

部位別にみた罹患の多い順

	1	2	3	4	5
男性	大腸	胃	前立腺	肺	膀胱
女性	乳房	大腸	子宮	胃	肺

出典
　がん登録等の推進に関する法律　第19条に基づき、宮城県立がんセンターが申請し、提供を受け集計したもの。

利府町のがん罹患　令和6年7月

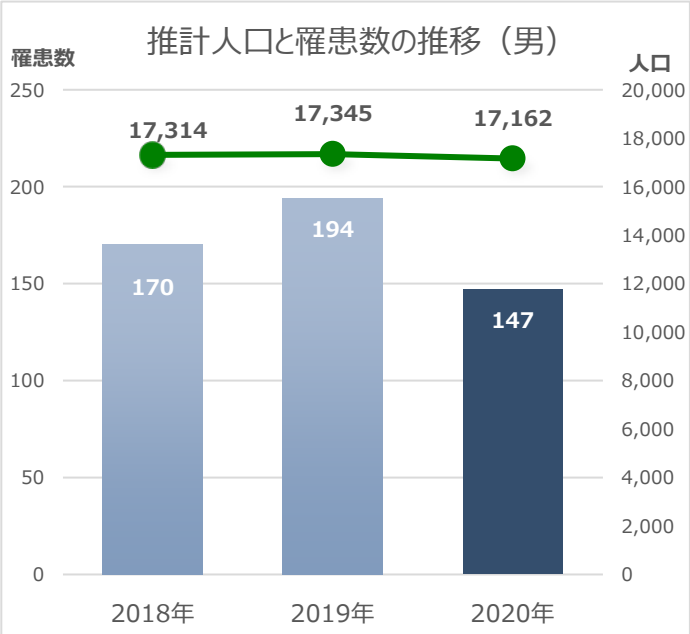
編 集･発 行：宮城県立がんセンター

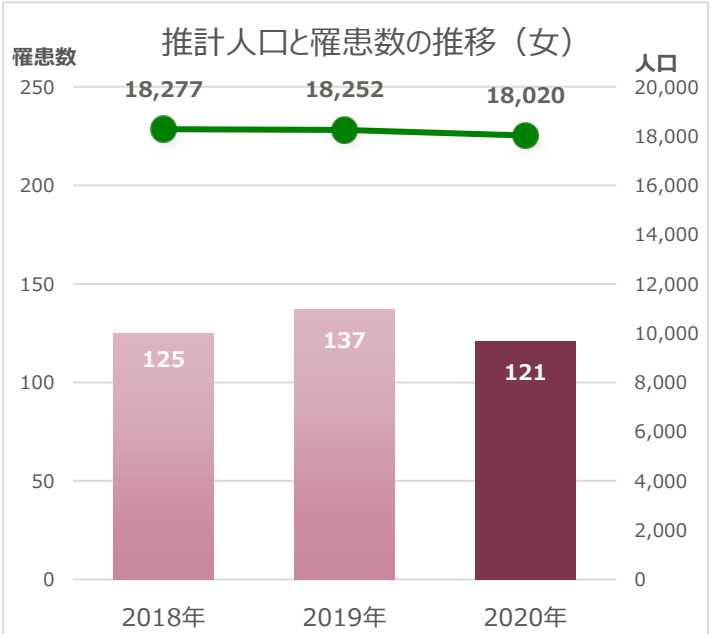
連絡先：〒981-1239
宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1
ＴＥＬ：022-796-3624
E-mail：registry@miyagi-pho.jp

推移

●男女ともに、2020年に減少に転じました。

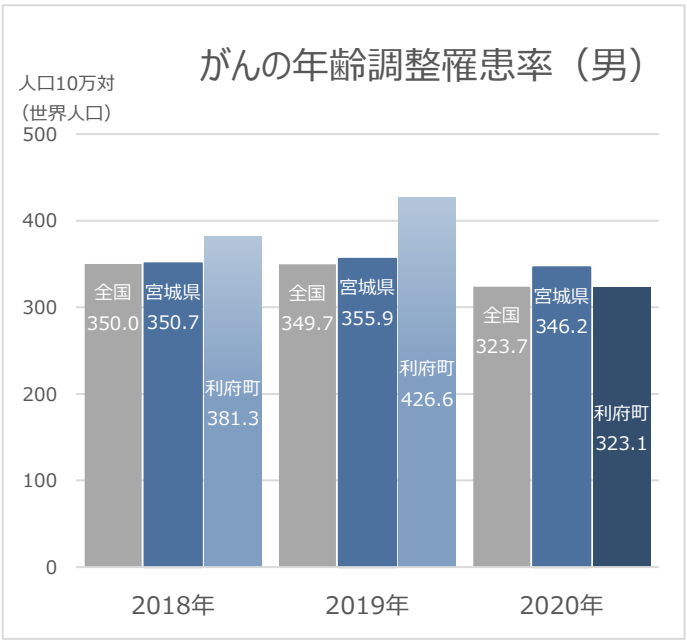
推計人口…国勢調査による人口を基に住民基本台帳から得た人口の増減を加減して算出した人口です。

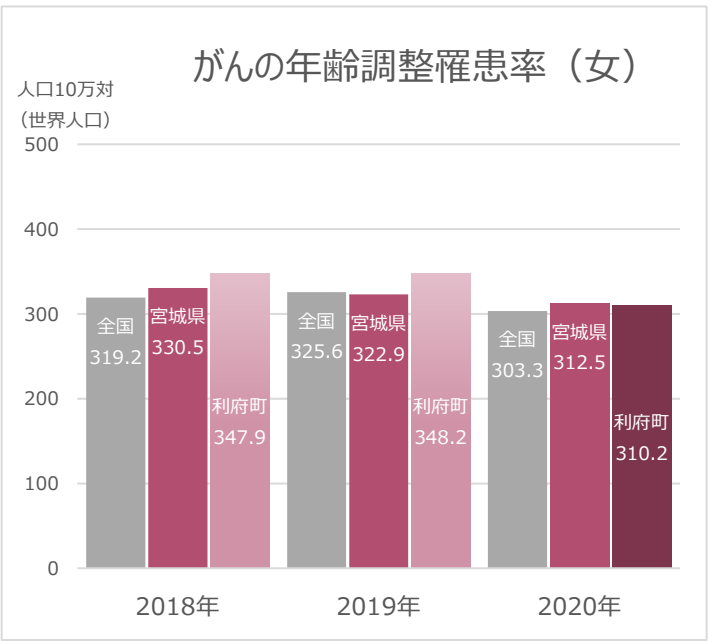




●男性では、全国や宮城県よりも高い値でしたが、2020年では全国や宮城県よりも低い値でした。女性でも、全国や宮城県よりも高い値でしたが、2020年では全国より高いものの、宮城県よりも低い値でした。

年齢調整罹患率で比較する理由…がんは高齢者に多いため、単純に人口で割った罹患率で比較した場合、高齢化率の高い地域で高い値になります。そのため、がんについて地域比較を行うときは、同じ年齢構成のモデル人口に置き換えた年齢調整罹患率を計算して比較します。

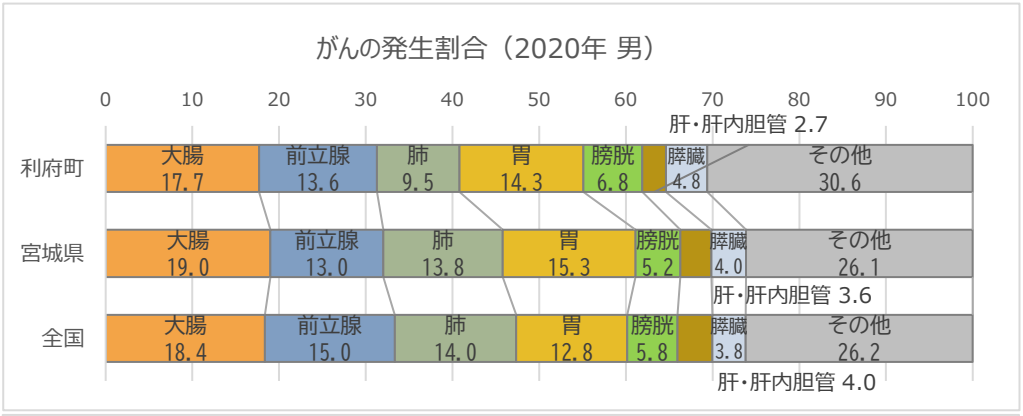


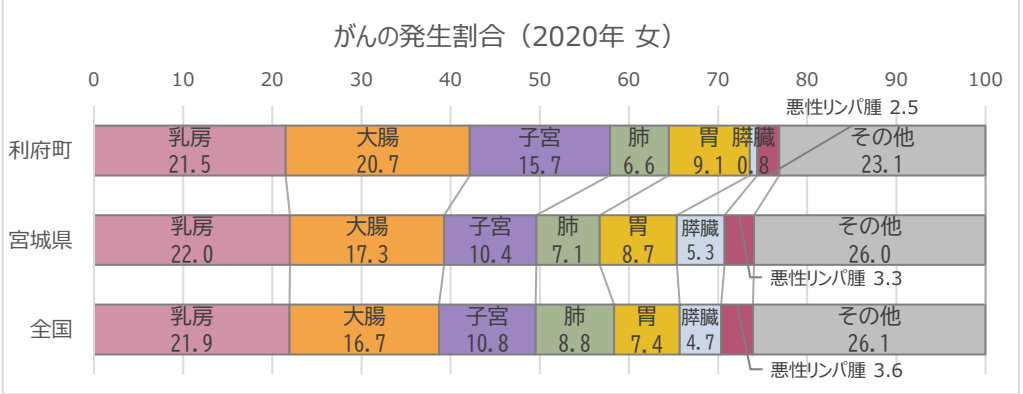


がんの部位別罹患数

がんの部位別罹患数（2020年）

部位	ICD-10		男		女	
			罹患数	%	罹患数	%
口腔・咽頭	C00-C14		2	1.4	4	3.3
食道	C15	D001	5	3.4	1	0.8
胃	C16		21	14.3	11	9.1
大腸（結腸・直腸）	C18-C20	D010-D012	26	17.7	25	20.7
肝・肝内胆管	C22		4	2.7	2	1.7
胆のう・胆管	C23-C24		7	4.8	2	1.7
膵臓	C25		7	4.8	1	0.8
喉頭	C32		1	0.7	0	0.0
肺	C33-C34	D021-D022	14	9.5	8	6.6
皮膚	C43-C44	D030-D049	1	0.7	3	2.5
乳房	C50	D05	0	0.0	26	21.5
子宮	C53-C55	D06	-	-	19	15.7
卵巣	C56		-	-	1	0.8
前立腺	C61		20	13.6	-	-
膀胱	C67	D090	10	6.8	1	0.8
腎・尿路（膀胱除く）	C64-C66，C68		5	3.4	3	2.5
脳・中枢神経系	C70-C72		1	0.7	0	0.0
甲状腺	C73		3	2.0	2	1.7
悪性リンパ腫	C81-C85，C96		6	4.1	3	2.5
多発性骨髄腫	C88，C90		0	0.0	2	1.7
白血病	C91-C95		2	1.4	1	0.8
その他	上記以外		12	8.2	6	5.0
全部位			147	100	121	100





男性

●男性に多いがんは、多い順に大腸、胃、前立腺、肺の4 つで、男性全体の５割以上を占めました。

女性

●女性に多いがんは、多い順に乳房、大腸、子宮、胃、肺の５ つで、女性全体の７割以上を占めました。

全国・宮城県との比較

●男性では、全国や宮城県と比べて、膀胱、膵臓の割合が高く、大腸、肺、肝・肝内胆管の割合が低くなっていました。

●女性では、全国や宮城県と比べて、大腸、子宮、胃の割合が高く、乳房、肺、膵臓、悪性リンパ腫の割合が低くなっていました。

年齢階級別罹患数

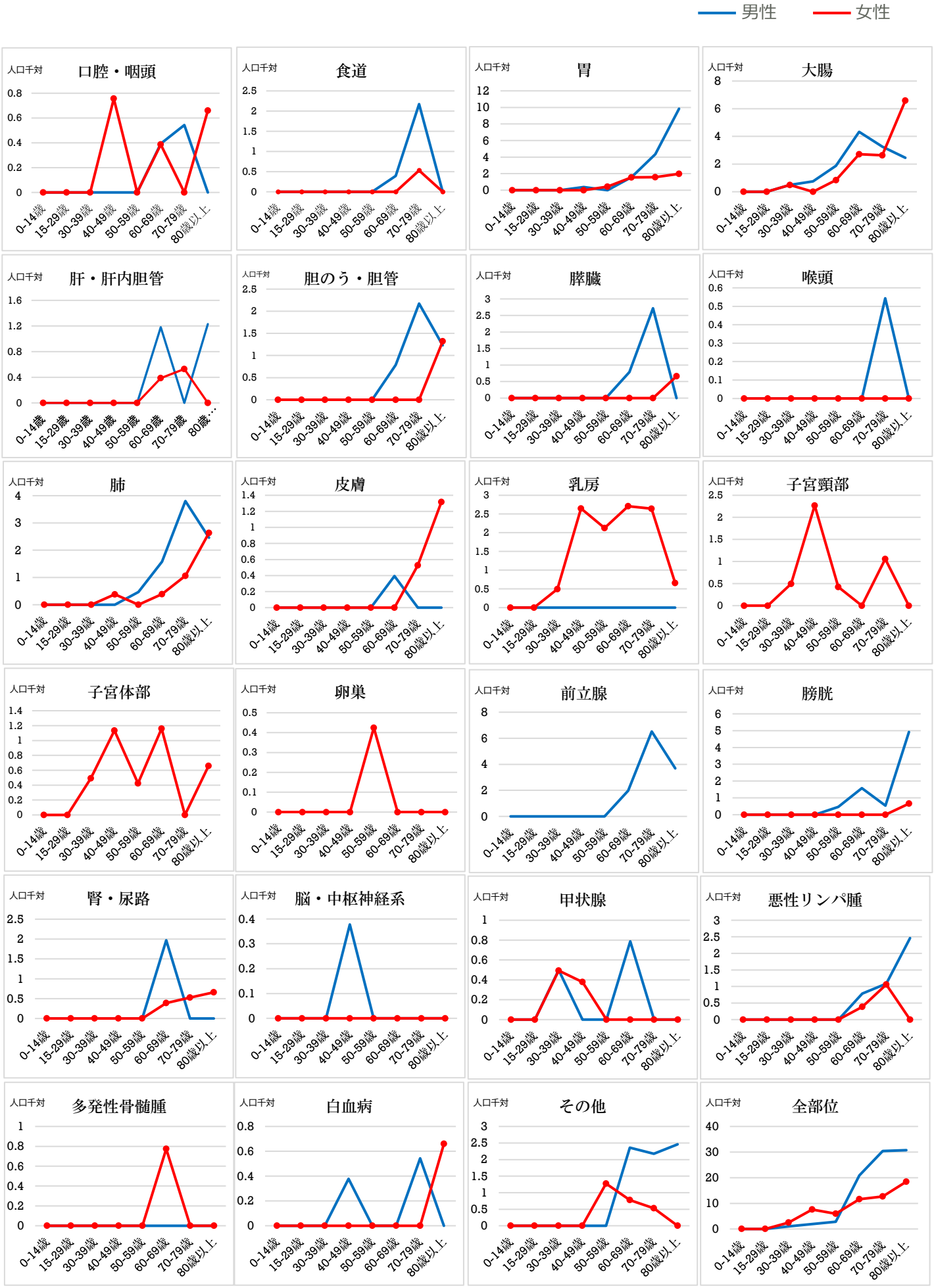
2020年	男性	0-14歳	15-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
口腔・咽頭	2	0	0	0	0	0	1	1	0
食道	5	0	0	0	0	0	1	4	0
胃	21	0	0	0	1	0	4	8	8
大腸（結腸・直腸）	26	0	0	1	2	4	11	6	2
肝・肝内胆管	4	0	0	0	0	0	3	0	1
胆のう・胆管	7	0	0	0	0	0	2	4	1
膵臓	7	0	0	0	0	0	2	5	0
喉頭	1	0	0	0	0	0	0	1	0
肺	14	0	0	0	0	1	4	7	2
皮膚	1	0	0	0	0	0	1	0	0
乳房	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子宮（頸部・体部）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣	-	-	-	-	-	-	-	-	-
前立腺	20	0	0	0	0	0	5	12	3
膀胱	10	0	0	0	0	1	4	1	4
腎・尿路（膀胱除く）	5	0	0	0	0	0	5	0	0
脳・中枢神経系	1	0	0	0	1	0	0	0	0
甲状腺	3	0	0	1	0	0	2	0	0
悪性リンパ腫	6	0	0	0	0	0	2	2	2
多発性骨髄腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白血病	2	0	0	0	1	0	0	1	0
その他	12	0	0	0	0	0	6	4	2
	147	0	0	2	5	6	53	56	25

多 少

2020年	女性	0-14歳	15-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
口腔・咽頭	4	0	0	0	2	0	1	0	1
食道	1	0	0	0	0	0	0	1	0
胃	11	0	0	0	0	1	4	3	3
大腸（結腸・直腸）	25	0	0	1	0	2	7	5	10
肝・肝内胆管	2	0	0	0	0	0	1	1	0
胆のう・胆管	2	0	0	0	0	0	0	0	2
膵臓	1	0	0	0	0	0	0	0	1
喉頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	8	0	0	0	1	0	1	2	4
皮膚	3	0	0	0	0	0	0	1	2
乳房	26	0	0	1	7	5	7	5	1
子宮（頸部・体部）	19	0	0	2	9	2	3	2	1
卵巣	1	0	0	0	0	1	0	0	0
前立腺	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膀胱	1	0	0	0	0	0	0	0	1
腎・尿路（膀胱除く）	3	0	0	0	0	0	1	1	1
脳・中枢神経系	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲状腺	2	0	0	1	1	0	0	0	0
悪性リンパ腫	3	0	0	0	0	0	1	2	0
多発性骨髄腫	2	0	0	0	0	0	2	0	0
白血病	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	6	0	0	0	0	3	2	1	0
	121	0	0	5	20	14	30	24	28

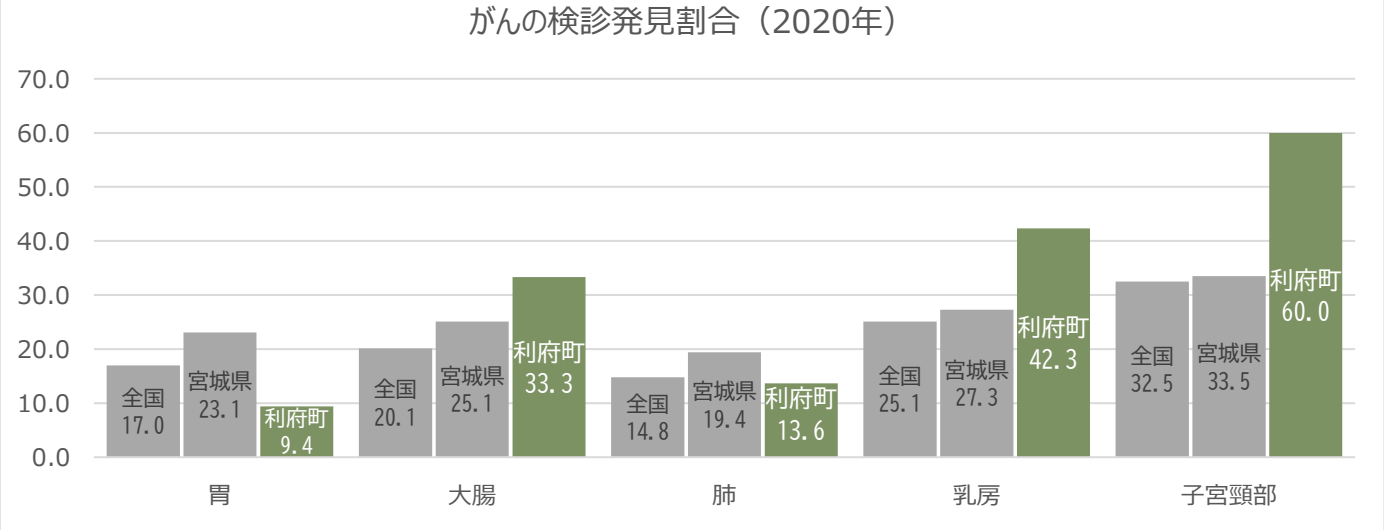
多 少

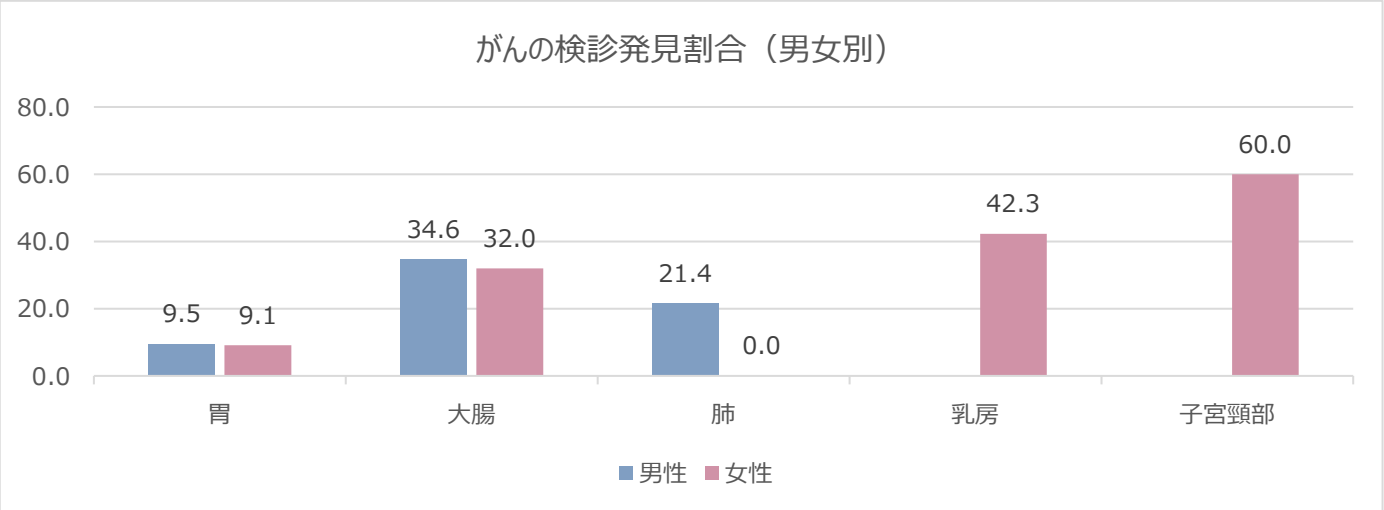
年齢階級別罹患率

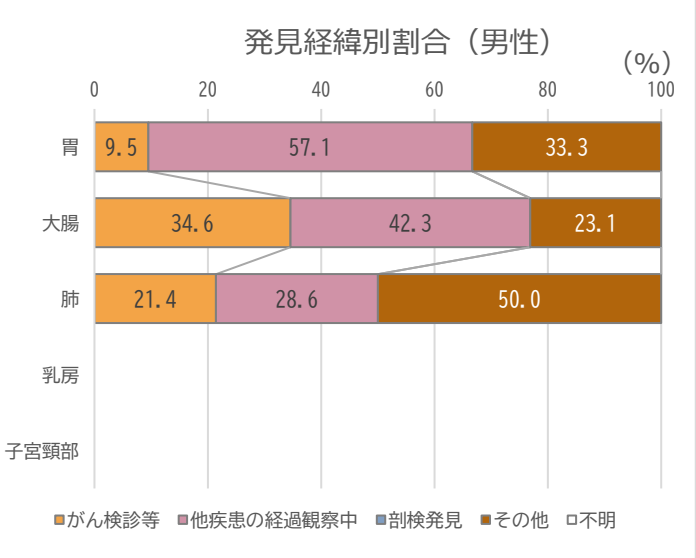

男性
女性
人口千対
口腔・咽頭
食道
胃
大腸
肝・肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
喉頭
肺
皮膚
乳房
子宮頸部
子宮体部
卵巣
前立腺
膀胱
腎・尿路
脳・中枢神経系
甲状腺
悪性リンパ腫
多発性骨髄腫
白血病
その他
全部位
0-14歳
15-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80歳以上

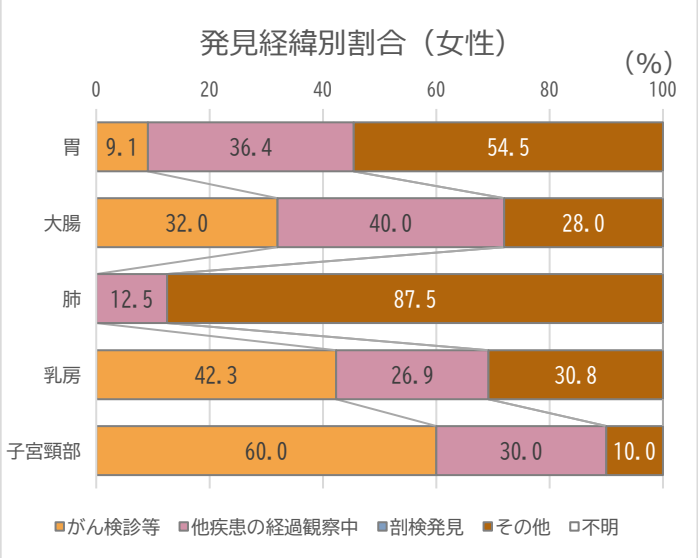
がんの検診発見割合

●大腸、乳房、子宮頸部で、がん検診等（健康診断・人間ドックを含む）で発見された割合が全国や宮城県よりも高くなっていました。男女別では、胃、大腸、肺で男性が高い値でした。

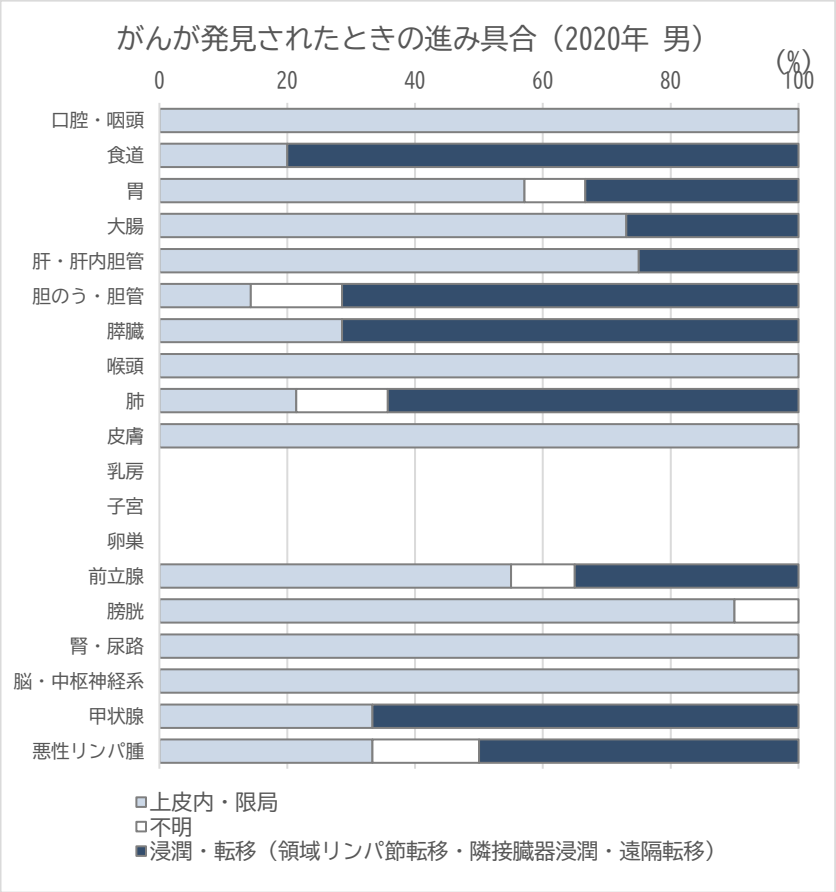




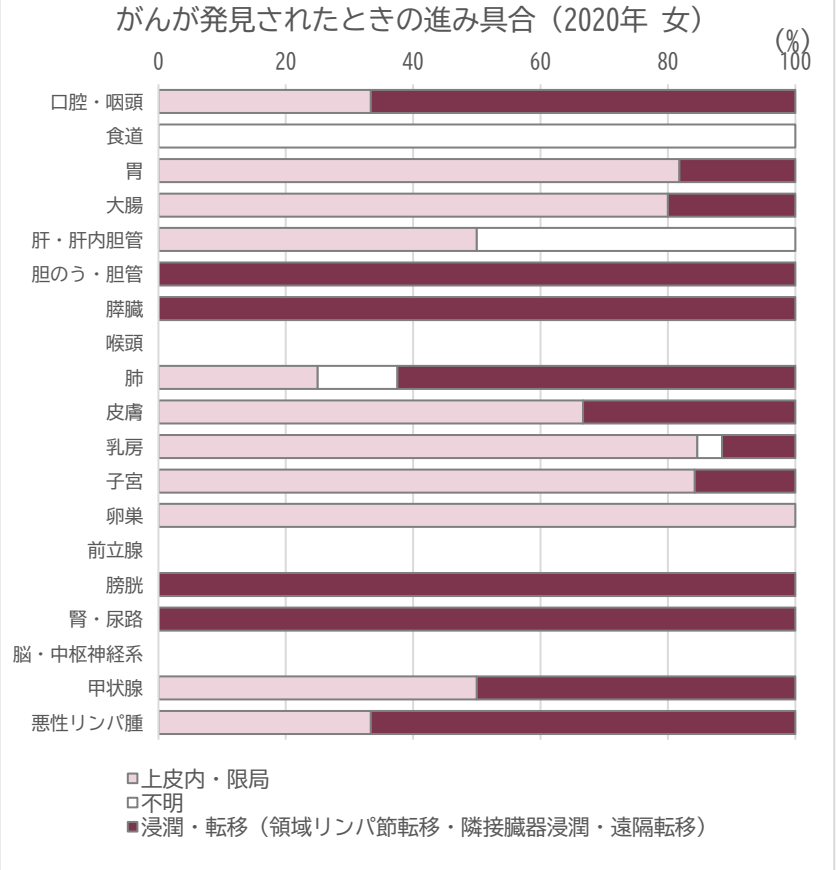




進展度



	上皮内・限局	不明	浸潤・転移
口腔・咽頭	100.0	0.0	0.0
食道	20.0	0.0	80.0
胃	57.1	9.5	33.3
大腸	73.1	0.0	26.9
肝・肝内胆管	75.0	0.0	25.0
胆のう・胆管	14.3	14.3	71.4
膵臓	28.6	0.0	71.4
喉頭	100.0	0.0	0.0
肺	21.4	14.3	64.3
皮膚	100.0	0.0	0.0
乳房	0.0	0.0	0.0
子宮			
卵巣			
前立腺	55.0	10.0	35.0
膀胱	90.0	10.0	0.0
腎・尿路	100.0	0.0	0.0
脳・中枢神経系	100.0	0.0	0.0
甲状腺	33.3	0.0	66.7
悪性リンパ腫	33.3	16.7	50.0



	上皮内・限局	不明	浸潤・転移
口腔・咽頭	33.3	0.0	66.7
食道	0.0	100.0	0.0
胃	81.8	0.0	18.2
大腸	80.0	0.0	20.0
肝・肝内胆管	50.0	50.0	0.0
胆のう・胆管	0.0	0.0	100.0
膵臓	0.0	0.0	100.0
喉頭	0.0	0.0	0.0
肺	25.0	12.5	62.5
皮膚	66.7	0.0	33.3
乳房	84.6	3.8	11.5
子宮	84.2	0.0	15.8
卵巣	100.0	0.0	0.0
前立腺			
膀胱	0.0	0.0	100.0
腎・尿路	0.0	0.0	100.0
脳・中枢神経系	0.0	0.0	0.0
甲状腺	50.0	0.0	50.0
悪性リンパ腫	33.3	0.0	66.7

男性

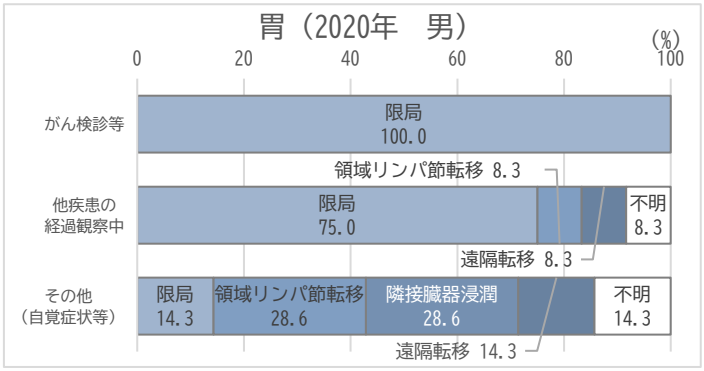
●口腔・咽頭、胃、大腸、肝・肝内胆管、喉頭、皮膚、前立腺、膀胱、腎・尿路、脳・中枢神経系で、早期のがんが多くなっていました。一方、食道、胆のう・胆管、膵臓、肺、甲状腺では、進んだ状態のがんが多くなっていました。

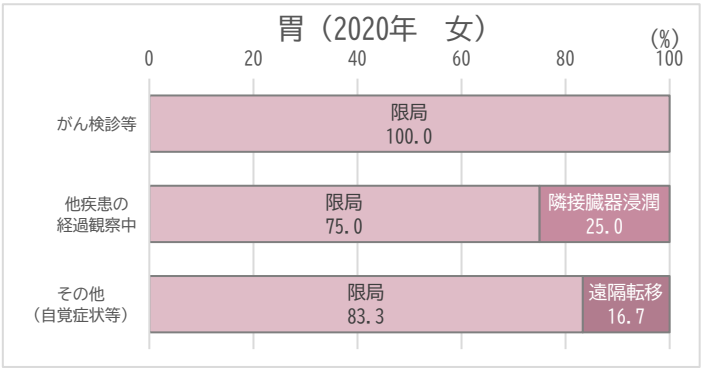
女性

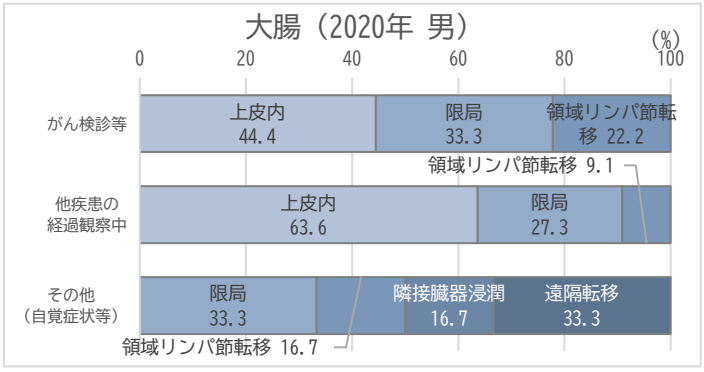
●胃、大腸、皮膚、乳房、子宮、卵巣で、早期のがんが多くなっていました。一方、口腔・咽頭、胆のう・胆管、膵臓、肺、膀胱、腎・尿路、悪性リンパ腫では、進んだ状態のがんが多くなっていました。

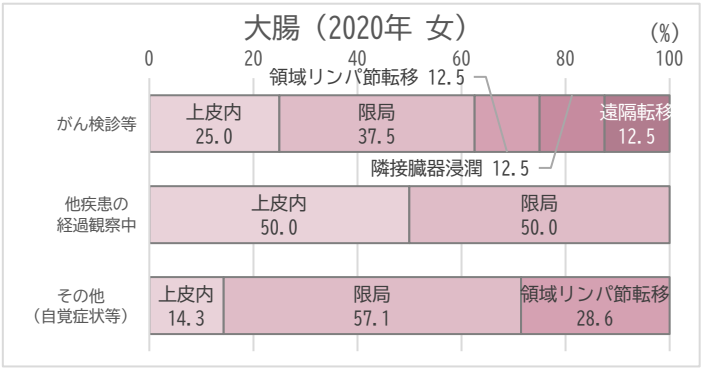
進展度…がんが発見されたときの進み具合のことです。病院では「ステージ」が使われますが、進展度は、これをもう少しわかりやすくしたものです。進展度が上皮内または限局のときは、がんが臓器の表面や臓器内に限局している状態で、比較的早期の状態です。一方、浸潤・転移のときは比較的進んだ状態になります。

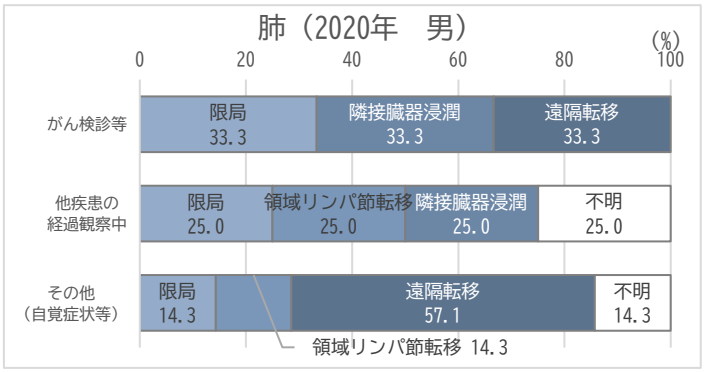
がんの発見経緯と進展度

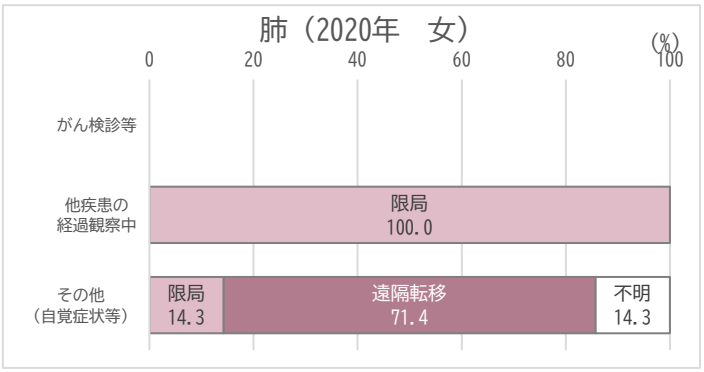


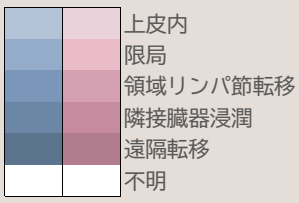
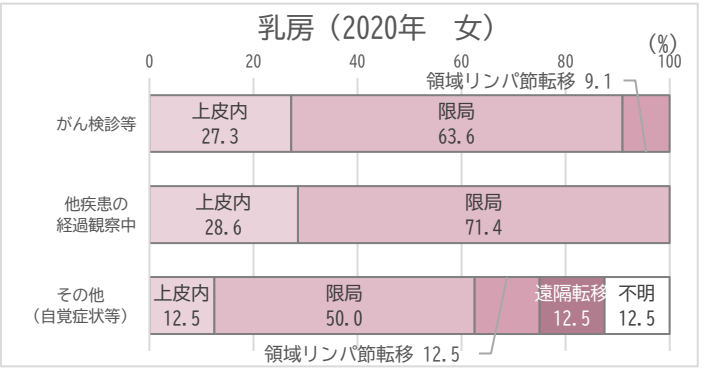
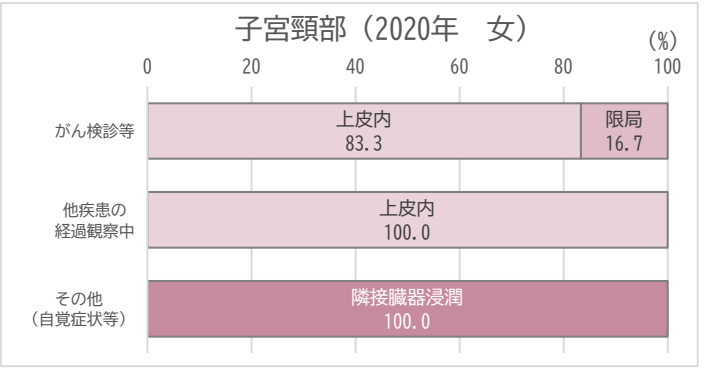












●がん検診は、がんの早期発見を目的に実施されています。男性の胃、肺、女性の胃では、がん検診等で発見された方は、他と比べて早期に発見された方の割合が高くなっていました。